

本会は、愛知万博問題を契機に注目された「海上の森」を里やまとして守り、楽しむために汗を流す市民が、行政との協働で立ち上げたものです。



休耕田のカズノコグサにつかまるシュレーゲルアオガエル

海上の森だより第12号目次

未来予想図(番外編)	P.2,3
海上歳時記	P.4,
海上いま、むかし	P.5
海上の森体験記	P.6,7
ぎゃ～ろめ通信	P.8
グループより	P.9
事務局からのお知らせ	P.10
運営委員会議事録他	P.11
7月～10月の行事予定	P.12

里山は生物多様性の優等生!

6月1日の新聞紙上は、2010年の生物多様性条約締約国会議(CBD・COP10)開催の記事で埋まりました。日本は人間と自然が共生するモデルとして「里山」を打ち出すそうです。

実は、里山が生物多様性の優等生なのは、経済循環がある人の暮らしが生きていたからです。今は、衰退に向かっているのが現実ですから、この機会に新しい経済循環のある「里山」を、日本人自身が打ち出せるかどうか試されているといえます。

海上の森の会 会長 山川 一年
事務所 〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1
「あいち海上の森センター」内
「海上の森の会」事務局
TEL&FAX 0561-21-9298 (留守電対応)
e-mail : kaisho_satoyama@yahoo.co.jp
ホームページ <http://kaishonomori.com/>



じゅうねん君未来予想図番外編

表浜に^{たいさがき}堆砂垣づくりに行く！



愛知県は、山あり里あり川ありですが、海もあります。時には、山を出て海に行くのもうれしいもの。今回は、ずっと気になっていた豊橋市の表浜にお邪魔しました。

地図上では、豊橋市小島町の海岸ですが、浜までのアプローチは海岸特有の入り組んだ畑の中の道。一人で今度行こうとしても絶対行けないような迷路を通過しました。



表浜に惹かれる理由は、アカウミガメが上陸し産卵する海岸だということです。海岸は気持ちのいい砂浜でしたが、砂は水のように動き回るため安定させておくには、条件がいるのです。特に人間が自分の都合で海岸線を埋めたり、削ったり、上流のダム建設で供給する砂が減少したりしたここ数十年は、日本の砂浜にとって受難続きでした。その影響をまろに被ったのが、海岸を生活の重要な場所としている生きものだったのです。

新聞にも報道されたように撤去された波消しブロックですが、残った半分は頑固なたたずまいを見せています。



(写真1) 浜に何度も上がろうとして波消しブロックに阻まれたアカウミガメの跡



(写真2) 波消しブロックで引き返すアカウミガメ



(写真3) 孵化したが、ブロックに阻まれ海に帰れないアカウミガメのチビたち



4月12日(土)は、穏やかに晴れ渡った少し眠くなるような朝。海の中にはすでにサーファーの姿がありました。表浜の特出すべき点は、海岸線が弓なりに砂浜と丘陵が連続していることです。こういう景観は吹上浜か北海道くらいだとか...

堆砂垣(たいさがき) 耳慣れない言葉ですが、砂浜の砂が留まるように工夫された垣根。そういえば、子どもの頃海水浴に行った浜辺にあった風景として記憶があります。

健全な部分が辛うじて残る表浜の砂浜を守るため、努力しているのが表浜ネットワークです。その趣旨に賛同し堆砂垣づくりのイベントを行ったデンソーエコレンジャーのみなさんに混ぜてもらいました。

等間隔に支柱を立て、横から2本の竹を挟み込んで垣を作ります。後はどんどん竹を差し込んで行く

のです。里を覆い、邪魔にされる竹がここでは重要な役目をしています。

何度も往復しながら竹を運び、立てる作業の連続で汗をかきました。昼食は豪華。浜鍋と称した何種類もの魚や貝が入ったブイヤベースでお腹はいっぱい。

食べた後は、表浜ネットワークの方と地元の高校生のコラボでアカウミガメの生態についてパネルを使った「講義」がありました。広い海からやってきて本州で産卵するウミガメはアカウミガメだけと知って、表浜の重要性とそれを少し支えた今日の仕事の大切さに誇らしい気持ちになりました。



(写真3)(堆砂垣つくりの光景)

 その後の表浜ですが、5月21日にアカウミガメが発上陸し、24日に初産卵を確認したとホームページにあります。

田中さんと、若い研究員の今村さんには、当分朝寝坊はできない「うれしい悲鳴」の毎日が続いています。

 表浜ネットワークは決して大きい団体ではありません。というより、弱小のNGOです。けれど、やっていることは決して小さくないことに尊敬と共感を持ちます。

なぜ小さいのに大きいのかは、次の田中さんの言葉からわかります。

「表浜ネットはなぜ、これだけメディアを使って

発信するのか。

これは全国で同様の問題に立ち向かっている者がいることを知っているからです。

宮崎の赤江浜や、九十九里、茨城の阿字ヶ浦、吹上浜、種子島、で活動しているサーファーやウミガメ研究者です。

表浜は先陣を切っていると思い込んでいます。砂浜・海岸線の認識を上げたい、の一念です。

全国の砂浜・海岸線の為に！と奮起し、発信しています。」

詳しくは、

<http://www.omotehama.org/report08/>

をご覧ください。



表浜ネットワークから学ぶこと！

1. 保全目標が明確

ウミガメ保護を、種の保護に留まらないウミガメが上陸・産卵できる自然豊かな砂浜復元につなげています。

2. 市民を巻き込む開かれた視点

保全目標に沿った堆砂垣という誰でも参加できる方法を見つけて普及しています。

3. 保護に反する疑問は追及

最近流行になっている子ガメ放流会は、子ガメの生態に反して明るい時刻に行われているため孵化率低下や性別決定に影響を及ぼしているため、辞めるように呼びかけています。



現在、表浜ネットワークと比べて、海上の森の保全に足りないことは何でしょうか。

みんなで話し、具体的に手を打っていくことこそが、未来予想図を希望のあるものにできるのではないのでしょうか。

表浜の開放的な海辺でつい想うのは、海上の森のことでした。

(S・Y)

この季節の見どころをご紹介

7月、梅雨時に咲き誇っていたヤマアジサイが終ると本格的な夏が来て森ではピンクのネムノキ、イワガラミ、キハギが、野ではオカトラノオ、ハエドクソウ、コマツナギ、アキノタムラソウなどが咲き出します。ニイニイゼミ、ヒグラシなどのセミが鳴き出し、湿地ではハッチョウトンボ、キイトンボ、モノサシトンボなどのトンボが見られます。

8月、夏の暑さにも負けずアカメガシワ、リョウブ、ノリウツギが、野草ではミズタマソウ、ノギラン、ワレモコウ、ガンクビソウなどが咲きます。マユタテアカネ、ノシメトンボなどの赤トンボが開始

め、セミは最盛期を迎えます。湿地ではサギソウ、イヌノハナヒゼ、ミカズキソウなど可愛い花が見られます。

9月、朝夕の暑さが収まる頃にはヤマハギ、コウヤボウキが道端ではノコンギク、シラヤマギク、ツルニンジン、ヤマジノホトトギスなどが、湿地ではシラタマホシクサ、ミミカキグサ、サワシロギクなどが咲きます。ツクツクボウシが増え、ミヤマアカネ、アキアカネ、ウスバキトンボは飛び始め、エンマコオロギ、ササキリ、カンタンなどの声が聞こえます。

お友達、ご夫婦で自然豊かな海上の森を歩きましょう。

(山本征弘)



ヤマアジサイ



キハギ



コウヤボウキ



オカトラノオ



ヤマジノホトトギス



ハッチョウトンボ



最初の海上住人は？ 縄文時代

氷河時代の日本列島にも日本人が生活していたことは今では定説です。紀元前1万年、温暖な沖積世の時代に移ります。縄文式土器を使用した縄文文化の幕開けです。

瀬戸市の地形は東の三国山(701m)・猿投山(629m)の東部山地が西の濃尾平野に移る丘陵地帯が広い面積を占めています。この海拔100~300mの「尾張丘陵」に現在の海上集落が在ります。瀬戸市内を西に流れる水野川・矢田川水系の丘陵周辺には、28箇所の旧石器から縄文時代の遺跡が確認されています(内13箇所調査)。

土器や石器を使用した「大平遺跡」(海上町)に住んだ住人が最初の海上住人です。尾根を越えた赤津の太子川原で旧石器(洪積世)時代のポイント(石槍)が発見されていますから、その子孫かも知れません。この頃は数人の家族単位で竪穴住居に住み、森に入って獣を追い、木の実や山菜を採集して暮らしました。縄文後期の「大坪遺跡」(上之山町)や晩期の「大六遺跡」(南山口町)の時代になると、湧水地に近い台地上に数戸の平地式住居を建てて集落を形成しました。これらの遺跡からは、東西6.5×南北5mの住居跡や石斧・石鏃(やじり)・石皿などの石器や多数の壺・甕(かめ)類が発見されています。



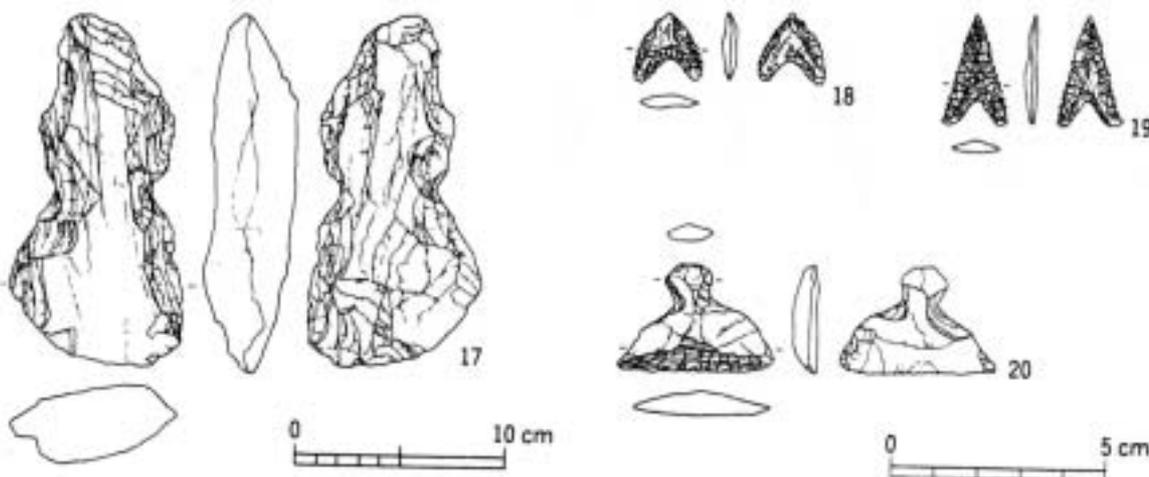
大六遺跡出土の深鉢形土器
(高さ 40.7cm、瀬戸市蔵)

最近の花粉分析による古環境や考古学研究成果には目覚ましいものがあります。今から6千年ほど前の縄文時代は現在より平均気温が2~3度高く、この海上周辺も照葉樹林に

覆われていたようです。考古学上では、自然界では栗樹の生育は10%ほどですが、縄文遺跡周辺では何と樹林の80%も占めている所も確認されました。これはクリやクルミを自然採集から計画栽培して利用した証です。

また古人骨の分析から、縄文人は低身長(男性でも160cm以下)扁平顔で鼻が高く、その寿命は男女とも31歳くらいでした。大人になった男性の大部分が、全く虫歯の無い門歯や犬歯を抜歯する習慣があったことも判明しましたが、これは今日の成人式にあたるものだったようです。この時代は呪術的風習が強く、死後の靈魂を封ずるために屈葬や抱石葬などが広く行われたようです。

(山川 一年)



- 17 石斧
- 18 やじり
- 19 やじり
- 20 皮剥ぎ

大坪遺跡出土遺物 (縄文時代後期)

(資料;瀬戸市埋蔵文化財センター)

海上の森で活動した外部の団体や個人の方は私たちのフィールドである海上の森で何を見て感じていただけただけでしょう？

『森と子どもと私』

森のようちえん ねっこぼっこ
副代表 浅井智子

森と私の出会い

次男の幼稚園探して出会った『森のようちえん ねっこぼっこ』とはかれこれ3年半のおつきあいになる。1歳10ヶ月の息子連れて体験参加した私は、落ち葉を踏みしめて歩く冬の森の心地よさ、黄金色に輝く木々の美しさ、落ち葉を大量に集めての焼き芋、自然物を使ってあそぶ楽しさにすっかりとりつかれた。



息子のためにとっと思って参加したはずだったのに、大人の私が森の魅力と『ねっこぼっこ』の保育にはまってしまった。これが私のライフワーク『森のようちえん』との出会い。私の人生の大きな転機となるとは、当時は全く予測し得ないことだった。

『森のようちえん ねっこぼっこ』って何？

『森のようちえん ねっこぼっこ』は春日井市高蔵寺近辺の森・里山を中心として活動している園舎を持たない自主保育グループである。(海上の森も卒園遠足などで利用させてもらった)

「自然の中で自然な子育てを大切にしたい」という一人の母親・織田敦子(ねっこぼっこ創業者・保育リーダー)の想いから2004年秋に誕生したとてもユニークな園である。

何がユニークかといえば、年間を通して森や里山など

で活動、雨天時などでも基本的に野外で過ごすこと、もうひとつは父母の会が園の運営を行なう自主保育グループであるという点だ。

保育士として公立保育園の現場を離れて数年後に、長男を出産。普通に保育園に預けて育ててきた私にとって、この自主保育との出会いは新鮮そのものだった。我が子・次男と共に仲間の子ども達の成長を日々間近に感じ、共に育みあって喜び合えるのは自主保育ならではのものである。そして一から十まで自分達の手作りであるが故に、親たちも否が応でも育っていく。煩わしさや意見のぶつかり合いは当然存在するし、自分の子育てを見つめ直す場面もある。それ故に自分を変えていかななくてはならない成長の痛みを感じる事が多々ある。仲間の中で育っていくのは子どもだけでなく、むしろ大人であることの方が多い...と感じるほどである。でも、これが自主保育の面白さであり、すっごくイイところだと私は思っている。

『ねっこぼっこ』では豊かな自然の中で、子ども達自身が生まれながらに持つ、自ら育っていこうとする力をじっと信じて待つ子育てを大事にしている。ただ野放しに好き勝手にさせるということではない。その子その子の育つ力を見守り引き出すには、子どもに寄り添い、子どもの育ちを知る確かな眼が必要とされる。

信じて待つことが子どもの生きる力を育み、自分らしく自分を生きていく上でどれだけ大事なのかを保育リーダー・織田は掲げ、それに賛同した多くの仲間達が今『ねっこぼっこ』に参加してくれている。

大人にとって必要以上の手出し、口出しを慎み、早く早くとせかさないで信じて待つというのは大変難しく、忍耐力が要求される。





そこで森の出番となる。森は手出し、口出しを一切せずただ、訪れる者を包み込み、受け入れ、豊かな恵みと厳しさを無言の中で与えてくれる。

この3年半の実践の中で強く深く感じるのは、大人たちの子どもの育ちを見つめる確かな眼と、温かな見守りが大切であるのはもちろん、森は子ども達の自主性・想像性・創造性・俊敏性・感受性などを豊かに刺激し、伸ばしていく最高の舞台となってくれるということである。

幼児期の野外体験活動

人気テレビ番組でドイツの『森のようちえん』が紹介されるなどして、『森のようちえん』という言葉が日本でも一般名詞化しつつあるし、野外体験活動は日本中で多く実践され、東京のある自然大学校では高額な参加料を徴収しても参加者が大勢集まると聞く。

『ねっこぼっこ』でも幼稚園・保育園に入園前の0歳～3歳の親子を対象とした月に数回の野外体験プログラムには、定員以上の参加申し込みが相次ぐ。自然の中で過ごすことのメリットを多いに感じてくださっている。

しかし、毎日野外で過ごす森のようちえん...となると、これがやはり躊躇する親御さんが多い。生活の場が森であることのユニークさに本当に大丈夫なのだろうか。私自身がそうだった。次男の入園を決めるまでに色々悩みに悩んだ。人数が少なくて社会性が養われるの？毎日野山を駆け回っているだけで大丈夫？もっと色々な体験が必要じゃないの？就学後の集団生活に支障はないの？安全面は大丈夫？...などなど。

1歳10ヶ月から森で育てて3年半、次男は今春年長クラスに進級した。そして彼は日々年々確実に成長を遂げている。彼が、彼の人生を謳歌している。

毎日毎日、雨の日も、凍えるような寒い日でも、仲間

と共に森を駆け巡った彼のふくらはぎにはキュッと締まった筋肉が養われ、体力充分、風邪もひかない。何度も失敗して悔しい思いも重ね、兄ちゃんたちの背中を見て培ったきた野外料理の火おこしでは、乾いた落ち葉は燃えやすく、細い枝から組み上げていくと大きな薪に火が移り易いことも体得している。そして、森に本当にリスが住んでいること、雨上がりの木々の緑が美しいこと、登りやすい木と、そうでない木があることを彼は知っている。毎日の森での生活は彼の幼児期を非常に豊かなものにしてきている。入園前に抱いていた心配はすっかり解消されている私である。

実体験をすること、本物の体験をすることを、幼児期は大事にしたい。人としての根っこを育てることを大事にしたい、それこそが『ねっこぼっこ』の基本であり、すべてとも言える。



森と子どもと私

私自身が感じてきた森で子育てすることの楽しさと心地よさを、今度はたくさんの親子と分かち合っていきたい。それが私のライフワークとなっていくであろう。『森と子ども』は私の一生のテーマ。そこで『私』がどう成長していくかも、とっても楽しみである。

さあ、森に出かけてみませんか。虫の名前、木の種類を知らなくたって大丈夫。レイチェル・カーソンは「センス オブ ワンダー」の中で、知ることは感じることの半分も重要でないと説いている。ただ感じるだけでいい。何かをするためにではなくて、そこで何かを感じる自分を見出すために...

2008年5月下旬

ぎゃろめ通信NO.6

ぎゃろめ 虫ま

ごめんなさい

あまふん ぎゃろめ通信NO.6

（ワカク）アマガサリカイショヨアムタ、トリカガニギヤカニオラハバツヨミ、ミチバツガハクムシカバハ、チウガク、カチカクガニヤオカオキナヨシホ、

ぎゃろめ通信NO.5で「里づくりグループへスタッフ登録すれば、小さは子どもがいても農作業が学べます」とお伝えしましたが、会の里づくりグループの現状は あいち海上の森センター主催の「里の教室」の参加者をサポートするものであり、会員に求められているのは「スタッフとしての実際の活動が出来ること」(議事録より抜粋)でした。

スタッフとしてのサポートは無理だけれど、体験したい、させたい方は一般の方(非会員)と同様、小4以上であればセンターに申し込みをし、「里の教室」に参加する事になります。
(今年度の参加者の募集は受付終了)

幾度かの確認を重ねた上でのお知らせでしたが、ことばの受け取り方の違いで誤解が生じたように間違をお伝えしてしまった事をこの場をお借りしてお詫び申し上げます。
「小さは子どもにも田植えの体験を... どんぐりあそびを... 田んぼの生き物観察を...」との会員の要望に1つも応えることが出来ませんでした。

※他の休耕田は水問題他の諸事情により現状は田んぼとしての使用は難しいようです。

7/20 森でワサワサ 川でガサガサ

まだまだ眠っていた頃 森の中では
さまざま生き物であふれている!! (はず)
早起きして ちよとのぞいてみよう
森と川、夏の生き物のさがし

この日は、あいち海上の森センターの遊歩道を夕暮れ時に開放してもらいます。ムササビがびっくりしないうそーってな

8/23 カワムツ こんにちは ムササビ こんばんは

ムササビは どこに住んでる？ 大きさは？
自分の目で確かめてみよう。もし、念のためからたら何食べるの？ 鳴き声は？ モモンガとの違いは？ などと確認してみよう

海上川で(海上入口P)
吉田川で(センター入口付近)

ホトトギス

ほっとけ

9/27 どんぐりの背くらべ

海上のどんぐりは何種類？
たくさん見ついたら並べて背くらべしてみよう。拾う時、上を見上げると、木肌やおぼろの開き、葉の付き方などいろいろ発見があるよ。見比べてみてね。

向農作業の中に耳の長い動物がいるよ それは何?



グループ報告

里づくりグループ

今年も県との委託契約を結び昨年と同様の内容で進めることになりました。

「里の教室」に参加される皆さんには、里山のすばらしさを知っていただきたいと思います。本年度ももち米とサツマイモ、ソバ、西瓜、玉ネギ、里芋、キュウリ等 20 種類ほどの栽培を予定しています。6月1日田植え、サツマイモの植え付けから始まり11月2日里芋の収穫まで8回の日程となっています。

森の会はスタッフとして対応していますが、畑は年間を通して耕作、植え付け、草取り、草刈り、収穫の準備が繰り返され、多くの手がひつようです。20年度は25人体制で実施されますが、まだまだ人手が足りません是非スタッフ登録をお願いいたします。

「里の教室」日程（6月～9月分）

- 6月 1日 田植え、サツマイモの植え付け
- 6月 15日 里芋植え付け等
- 7月 6日 イノシシよけの柵づくり等
- 7月 27日 ソバの播種、水田の管理等
- 8月 24日 野菜の収穫、竹林の整備等
- 9月 21日 サツマイモ等の収穫

11月15日は収穫感謝祭が海上の森サテライトで催されますので楽しみです。

（鈴木五男）



里のくらしグループ

4月6日 新グループとして最初の活動を実施。

お天気は快晴、桜は満開、のどかな一日でした。

「ひな祭り」と「オコシモン」づくりでしたが子供さんの参加が一人でしたので大人ばかりでおこないました。それでも一般の方は沢山みえまして、サテライトは一日中人であふれかえっていました。

5月5日 5月節句と多度神社祭礼

朝から雨が降ったりやんだりでうっとおしい日でした。

「柏餅」を作ったり、「草餅」「紅白餅」をつくったり、地元の皆さんの煮物揚げ物等お供えしたり、参加者全員で会食したり、ゆったりした一日でした。

家族会員の方も大勢参加してくださいました。

森センターからもセンター長他職員の皆さんや地域の方も参加いただきお話がはずみました。

（出口）

会活動報告

環境保全活動

4月19日(土)青空のもと海上川の道路沿いの清掃活動をしました。ごみ収集がよくされるようになったので、森の会の清掃活動を今年から年一度にしました。当日は会員23名非会員2名合計25名の多数の人が参加して9時30分から12時まで活動を行いました。成果は可燃・不燃ごみが合計25袋(軽トラック2台分)、タイヤ・テレビ・ストーブなどの粗大ごみが軽トラック2台分ありました。引っ越しなどで海上の森にごみを捨てるのは大変困ったことです。ごみは集積して、後日瀬戸市清掃課に収集してもらいました。(馬宮)



事務局から皆様へ

<会員はみんな保険に加入しているの?>

私たちの加入している保険は、愛知県社会福祉協議会を契約者とする「ボランティア活動保険」で、森の会の企画・行事に参加される場合の方が一の事態に備え加入しています。保険の対象者はボランティアが出来る小学生以上となっています。

<「里づくりグループ」のスタッフ登録は実際にスタッフとしての活動が出来る方に限ります>

それは「里の教室」が愛知県からの受託事業で「里づくりグループ」が運営しているからです。このこととは別に、今、全国的に農業の後継者不足が問題になっており、「幼児期から農業体験をさせたい」というお気持ちも分かりますので、また別のフィールドを検討しましょう。

<会計方法を検討していきます>

去る3月23日に行われました総会の決算報告の際、会員の方から「分かりやすく、表記方法についても工夫してほしい」旨の発言がありました。事務局と会計監査とでこれから話し合っていきます。

<軽トラックを譲りうけました>

農機具や作業用具の運搬、環境保全活動時のゴミの収集など、これまでは個人の軽トラックを借用してきましたが、このたび会員の方から軽トラックを譲り受けました。関係するグループの責任者の方にカギを渡してあります。

(事務局長 福田澄夫)

第46回～第47回運営会議で話し合われた主なこと

運営会議は傍聴できます。

ご希望の方は事前に事務局までご連絡をお願いします。

第46回運営会議 2008.4.20

4月19日実施の環境保全活動に会員23名非会員2名が参加。可燃不燃粗大合わせて軽トラック4台分の不法投棄物を回収。/軽トラックが無償譲渡されたことに伴い、手続きと使用規定の作成/非会員のイベント参加に行事保険加入。/海上の森便り編集委員に福田副会長が参加/運営会議の傍聴は事前に事務局に連絡し発言は議長(会長)の許可を得ることを再確認。/瀬戸市から依頼の「生涯現役講座」(テーマ環境3回実施)は事務局が担当。/5月24日の知多市地域文化センター企画「里山の自然学校」は山川会長以下4名が担当。/4月19日開催の「あいち自然環境団体・施設連絡協議会」総会に山川会長、福田副会長が出席。/協議会から夏休みの子ども対象の活動・発表会に協力要請。/「人と自然の共生国際フォーラム」委員会に山川会長、作業部会に福田副会長を選ぶ。/決算方法の改善について事務局と監事が検討することに。/4月26日の瀬戸ラジオサンQに事務局が出演。/委託事業等の報酬基準について現状把握し検討開始。/センターが20年度委託事業・指導者派遣、海上の森整備事業、自然環境調査、あいち海上の森大学、「人と自然の共生国際フォーラム」開催計画、企業連携、南門オープンについて説明。

第47回運営会議 2008.5.25

5月5日「5月節句菓子作り」の会計報告。/6月7日実施の海上の森ツアーにスタッフ参加の協力要請。/「海上の森だより」第12号原稿の提出期限確認。/瀬戸市「生涯現役講座」(6月7日)で発表。/5月24日知多市地域文化センター「里山の自然学校」に講師5名派遣。/5月24日INAX山林体験事業に指導員派遣。/5月14

日「人と自然の共生国際フォーラム」作業部会は欠席。/委託事業等の報酬基準について現状把握から着手。/事務局が各グループの活動予算案提出を要請。/「海上の森の会」のNPO法人化について検討を着手。/センターが「海上の森大学」7月13日開講、「人と自然の共生国際フォーラム」11月15日～16日開催スケジュール・テーマについて説明。/6月10日山口ホテルの会から「ホテルの話と観察会」の案内。

第48回運営会議 2008.6.21

瀬戸市「生涯現役講座」で活動状況発表。/第4回ため池勉強会の報告。/6月8日野あそびグループが宝探し実施。/6月7日海上の森ツアー2コースで45名参加実施。/里づくりグループで6月1日、6月15日里の教室実施。/6月10日山口ホテルの会講演会と観察会に84人参加。/各グループから活動予算案提出。/事務局が報酬基準の素案作成/海上の森の会のNPO法人化を前提に検討を着手。/あいち海上の森センターが「幼児森林体験推進会議」委員の参加要請。平成21年度委託事業5プログラムの全面委託について説明。海上の森大学への応募を要請。

(似内)



7月～10月の行事予定

7月	6(日) グループ例会(資料整理と調査) 【生活史調査グループ】 10:00～13:00 集合:里山サテライト 持物:昼食・飲料水・筆記具 対象:会員 資料の整理と調査カードの確定、聞き書き調査も行います。
	11(金)・12(土)[予備日:13(日)] 作業道整備 【森づくりグループ】 9:00～15:00 集合:現地(弘法堂横)持物:昼食・飲料水・手袋 対象:会員 秋からの間伐作業に備え下草刈りを行います
	20(日) 森でワサワサ川でガサガサ 【野あそびグループ】 7:00～11:30 集合:海上入口駐車場 持物:飲料水、タモ 対象:会員、家族会員 朝の森と川は? 森では長袖・長ズボン、川では水遊びのできる格好(友達誘って当日入会も可)
8月	23(土) カワムツこんにちはムササビこんばんは 【野あそびグループ】 15:00～19:30 集合:あいち海上の森センター 持物:飲料水、弁当、タモ 対象:会員、家族会員 夜の森も! 川遊びのできる格好と着替え、夜は長袖長ズボン(友達誘って当日入会も可)
	6(土) 作業道整備 【森づくりグループ】 9:00～15:00 集合:現地(弘法堂横)持物:昼食・飲料水・手袋 対象:会員 秋からの間伐作業に備え下草刈りを行います
9月	14(日) 第5回ため池勉強会 【会行事】 13:00～15:00 集合:里山サテライト 持物:飲料水、筆記用具 対象:会員 ため池築堤予定地の絞り込みと築堤の工法、工期、工事費などの具体的な検討を行います。
	14(日) 津軽三味線鑑賞と月見の宴 【里のくらしグループ】 15:00～20:30頃 集合:里山サテライト 持物:飲料水、食器・箸、防寒着 対象:会員、家族会員、非会員 秋の七草採集、月見団子・芋ういろ・栗おこわ等お供え物作り 参加(食材)費:会員は300円/人、500円/家族、非会員は500円/人
	27(土) ドングリの背くらべ 【野あそびグループ】 9:30～14:30(午前のみ参加可) 集合:海上入口駐車場 持物:飲料水、弁当 対象:会員、家族会員 ドングリ何種類拾えるかな? (友達誘って当日入会も可)
10月 予告	25(日) 海上の歴史(4)海上の近代 【会行事:学びと交流の集い】 13:00～15:00 集合:里山サテライト 持物:飲料水、筆記具 対象:会員、非会員(中学生以上) 講師:山川一年 シリーズ第4回目、現代に繋がる具体的な事跡がいよいよ姿を現します。

定期開催している活動

毎週木曜 **生物季節調査(花・虫・鳥)** 動植物の四季の変化を継続調査しています【自然環境調査グループ】
9:30～ 集合:海上入口駐車場 持物:昼食、飲料水 対象:会員

あいち海上の森センター募集行事の受託事業

グループスタッフ登録受付中!

【里の教室】7/6(日)・27(日) 8/24(日) 9/21(日) 10/11(土) 詳細はP.9 参照

【海上の森ツアー】 9/13(土)海上入口駐車場集合9:00～13:30 予定

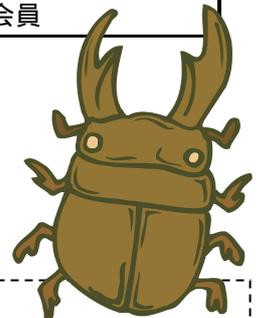
一般参加申込みは海上の森センター(0561-86-0606)まで

問い合わせ先一覧

問合せ活動	担当	電話&FAX
【学びと交流の集い】	伊藤	0561-84-7044
【野あそびグループ】	早川	0561-21-9863
【里のくらしグループ】	出口	0561-83-3470
【森づくりグループ】	平野	0568-54-9118
【自然環境調査グループ】	山本	0561-54-9067
【ツアーグループ】		
【里の教室】	海上の	0561-86-0606
【海上の森ツアー】	森センター	0561-85-1841

編集後記

12号にして初めて、締め切りに余裕を持たせてスケジュール管理ができました。この調子でいきたいものです。生物多様性条約とは「明日も子どもたちといっしょに地球で生きていこう」という生命(いのち)の条約といわれています。やさしい表現に込められた思いは深く、視野は広い条約です。さて、海上の森のローカルをどうしたらグローバルにつなげられるのでしょうか??? (曽我部)



随時入会受付中!

年会費(4月～翌年3月) 1口1,000円 1口以上
同居2名以上で家族会員 1口2,000円 1口以上
賛助会員(個人・団体)大歓迎!

口座記号番号 00820-6-185628
加入者名 「海上の森の会」

ご意見ご感想お待ちしております!

森の会への連絡はメール FAX 郵便でどしどしお送り下さい

kaisho_satoyama@yahoo.co.jp 0561-21-9298